

## 第2章 周辺の自然・歴史・社会的環境

### 第1節 自然環境

#### 第1項 位置とアクセス

史跡丸亀城跡が所在する丸亀市は、香川県のほぼ中央部に位置し、東は宇多津町、坂出市、綾川町、西は多度津町、善通寺市、南はまんのう町に接しており、北は瀬戸内海に面し塩飽諸島の一部を含んでいる（図7）。

史跡丸亀城跡は市街地中心部の亀山という名の城山に立地する。アクセスルートとしては、瀬戸中央自動車道の坂出インターチェンジからは、国道11号、県主要地方道46号と同21号を利用して車で約20分の距離にある。高松自動車道の善通寺インターチェンジからは、国道319号と国道11号、県主要地方道33号を利用して約30分の距離にある。

鉄道利用の場合には、JR丸亀駅が最寄りの駅となり、駅からは南へ徒歩約15分の距離に位置する。

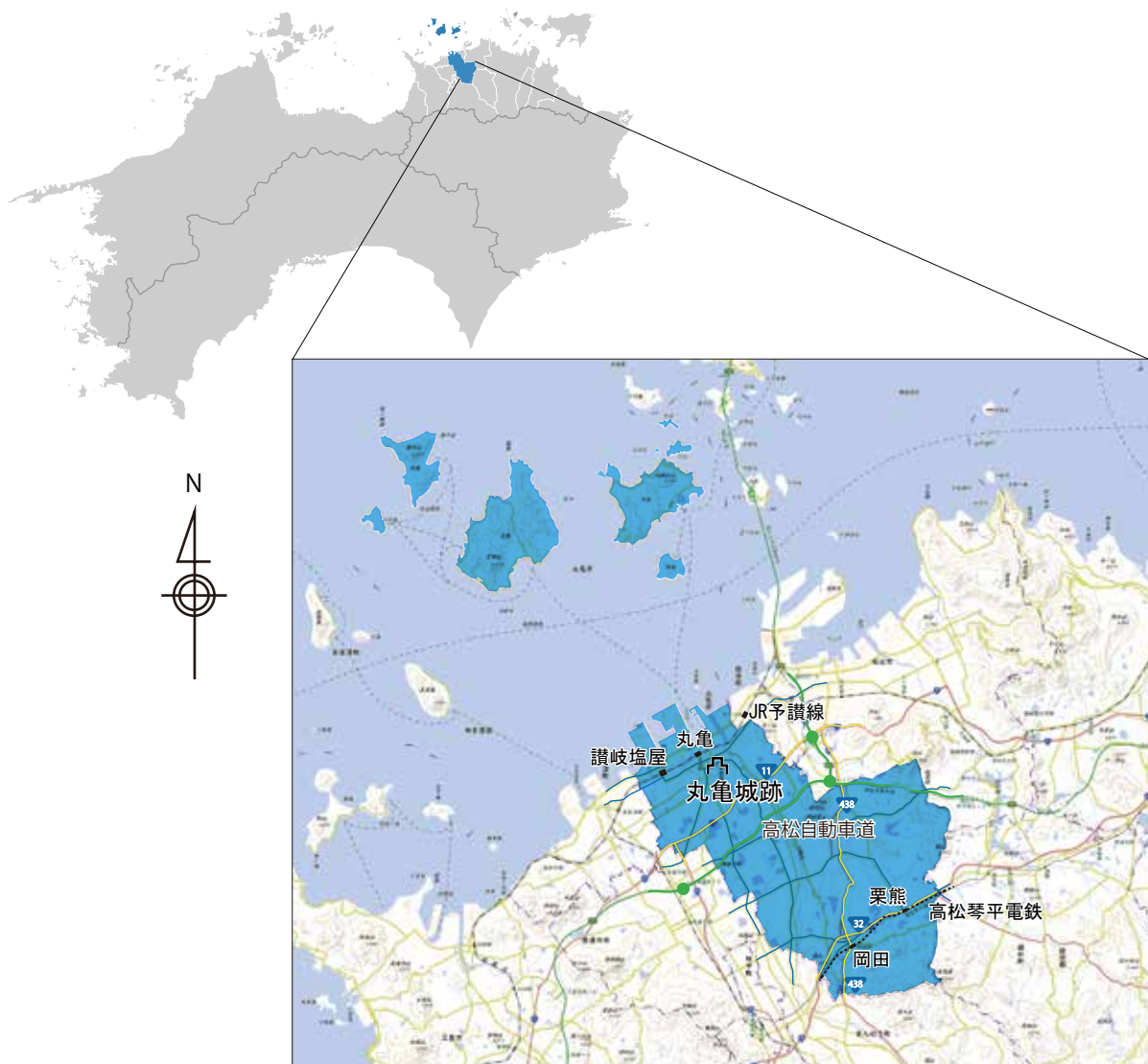


図7 丸亀市位置図

表 2 位置及び範囲

面積	市役所の位置		広ぼう		海拔		
	東経	北緯	東西	南北	中心地	丸亀城	飯野山
111.83k m <sup>2</sup>	133° 48'	34° 17'	約 24.16km	約 23.82km	4 m	69 m	422 m

丸亀市統計書 令和元年（2019）版 丸亀市より

## 第2項 自然環境

### 1 気候・気象

本市は温暖少雨の瀬戸内特有の気候である。平成 27～令和元年（2015～2019）の 5 年間の年平均気温は 16.8℃、冬期でもおおむね 6℃以上あり、温暖な気候に恵まれている。同じく 5 年間の年平均降水量は 1,121 mm であり、日照時間は 8 月が 223 時間と長く、12 月が 115 時間と最も短く、年平均は 165.9 時間と全国平均より高い地域となっている。風速は、5 年間の年平均で 2.3 m/s となっている。

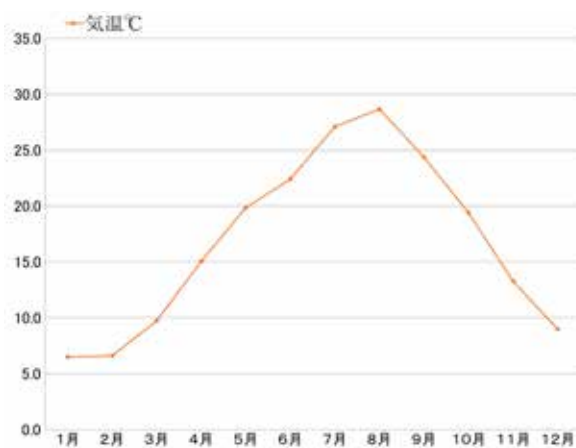


図 8 月平均気温 (2015～2019年)

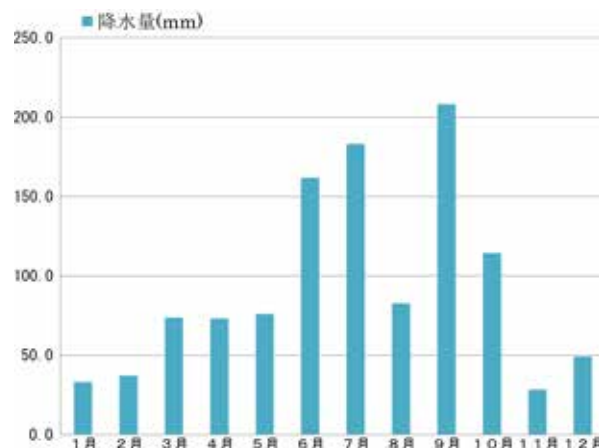


図 9 月平均降水量 (2015～2019年)



図 10 月平均日照時間 (2015～2019年)

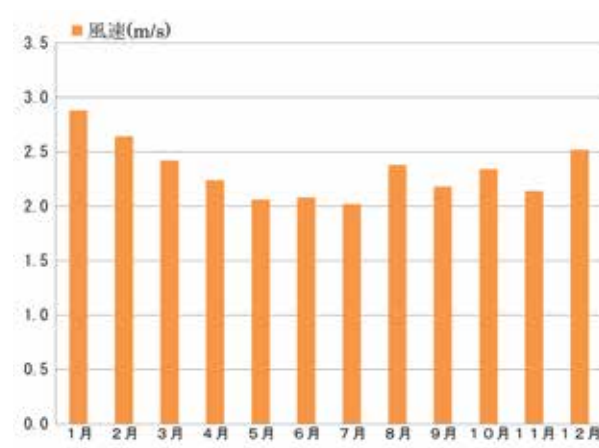
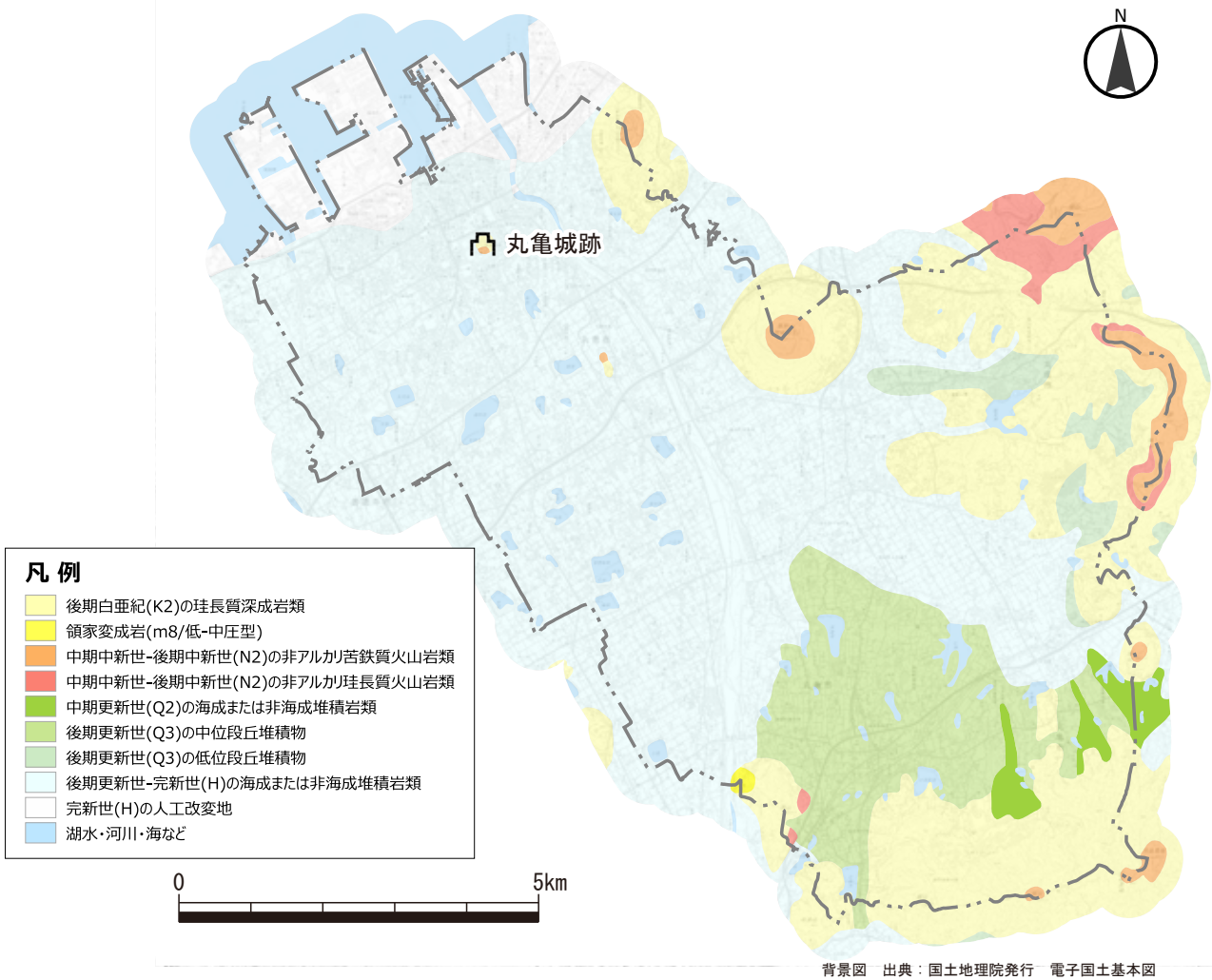
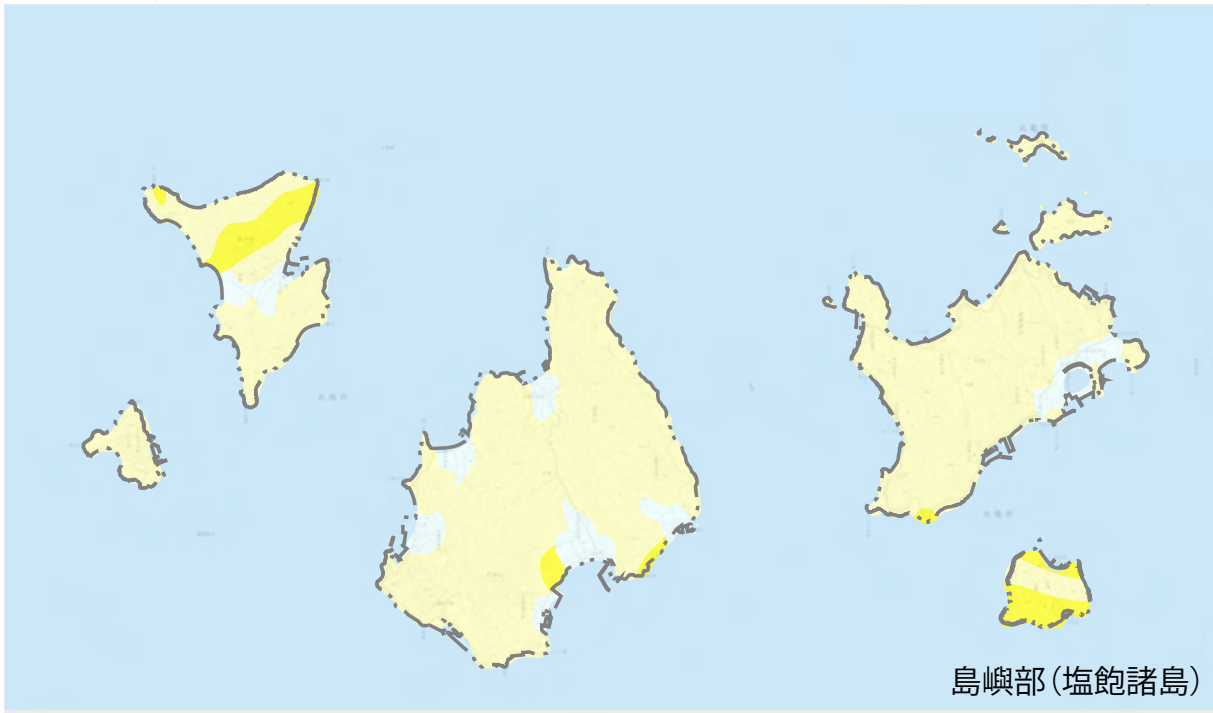


図 11 月平均風速 (2015～2019年)

(多度津測候所のデータを元に丸亀市が作図)



- 凡例**
- 後期白亜紀(K2)の珪長質深成岩類
  - 領家変成岩(m8/低-中圧型)
  - 中期中新世-後期中新世(N2)の非アルカリ鉄質火山岩類
  - 中期中新世-後期中新世(N2)の非アルカリ珪長質火山岩類
  - 中期更新世(Q2)の海成または非海成堆積岩類
  - 後期更新世(Q3)の中位段丘堆積物
  - 後期更新世(Q3)の低位段丘堆積物
  - 後期更新世-完新世(H)の海成または非海成堆積岩類
  - 完新世(H)の人工改变地
  - 湖水・河川・海など

図 12 丸亀市の地質

## 2 地質

丸亀城跡が立地する亀山周辺の平地は、蛇行河川の氾濫原低地を背後に持つ三角州、海岸平野を形成する泥質堆積物（sm2）が分布する地域である。

亀山は地質図（「土地保全図（自然環境条件図）香川県：国土庁土地局企画編集」）によると、南西側山麓に新第三紀中新世の讃岐層群からなる讃岐岩質安山岩（As）の露頭がみられ、全体には中生代白亜紀の中粒ないし粗粒の領家花崗岩（Gr）からなる小規模な山体である。西側山麓にあるかぶと岩は柱状節理がみられる突出した安山岩の岩体で、安山岩がドーム状に貫入したと岩頸と考えている。京極氏時代には天神社、三社の神社があり、桜山吹、泉池があり、それを望む金風玉露楼（讃州丸亀蓬莱図 丸亀市立資料館蔵）とあり、御殿から見る庭園の借景にもなっていた。

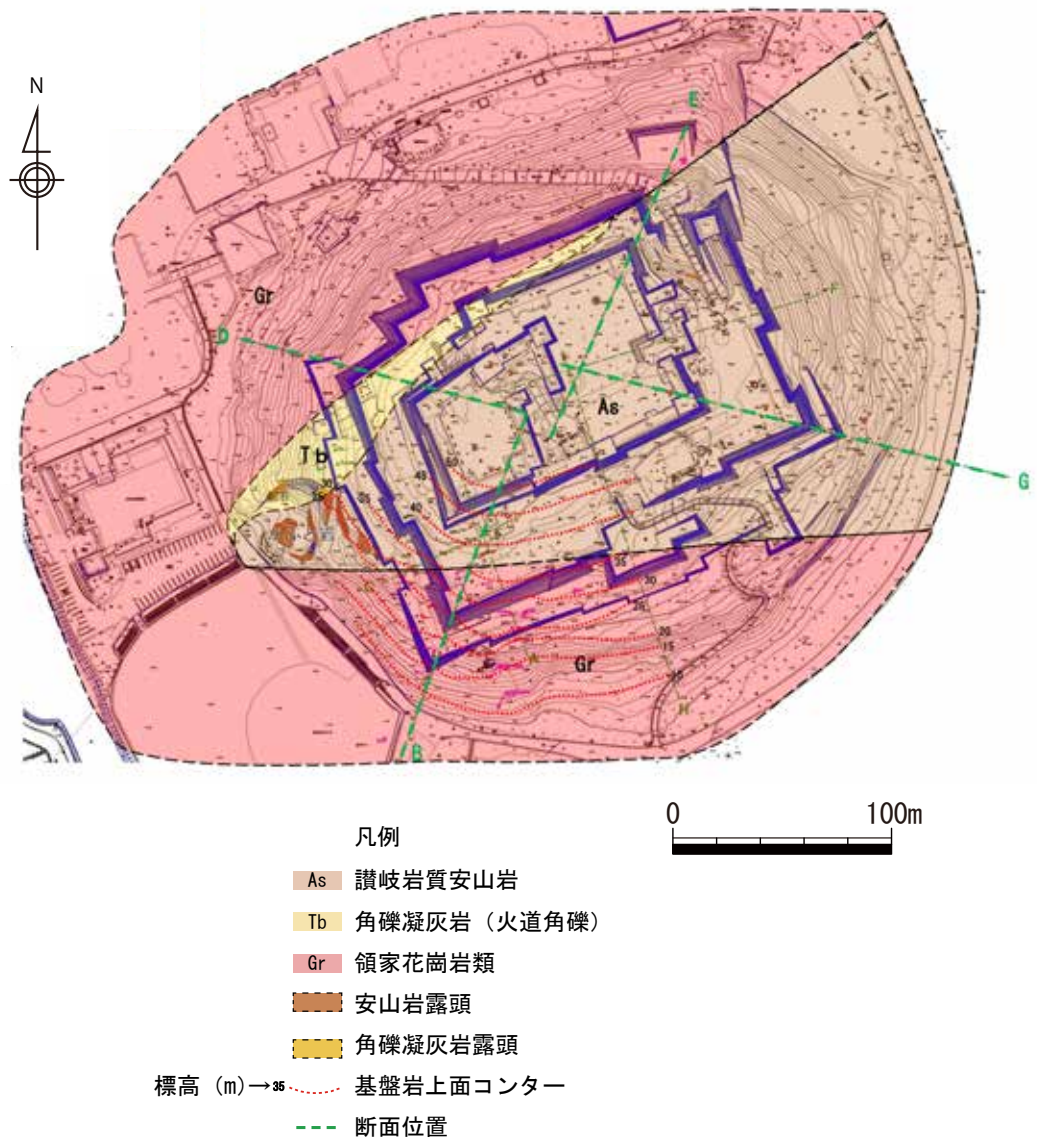


図 13-1 丸亀城跡の地質平面図

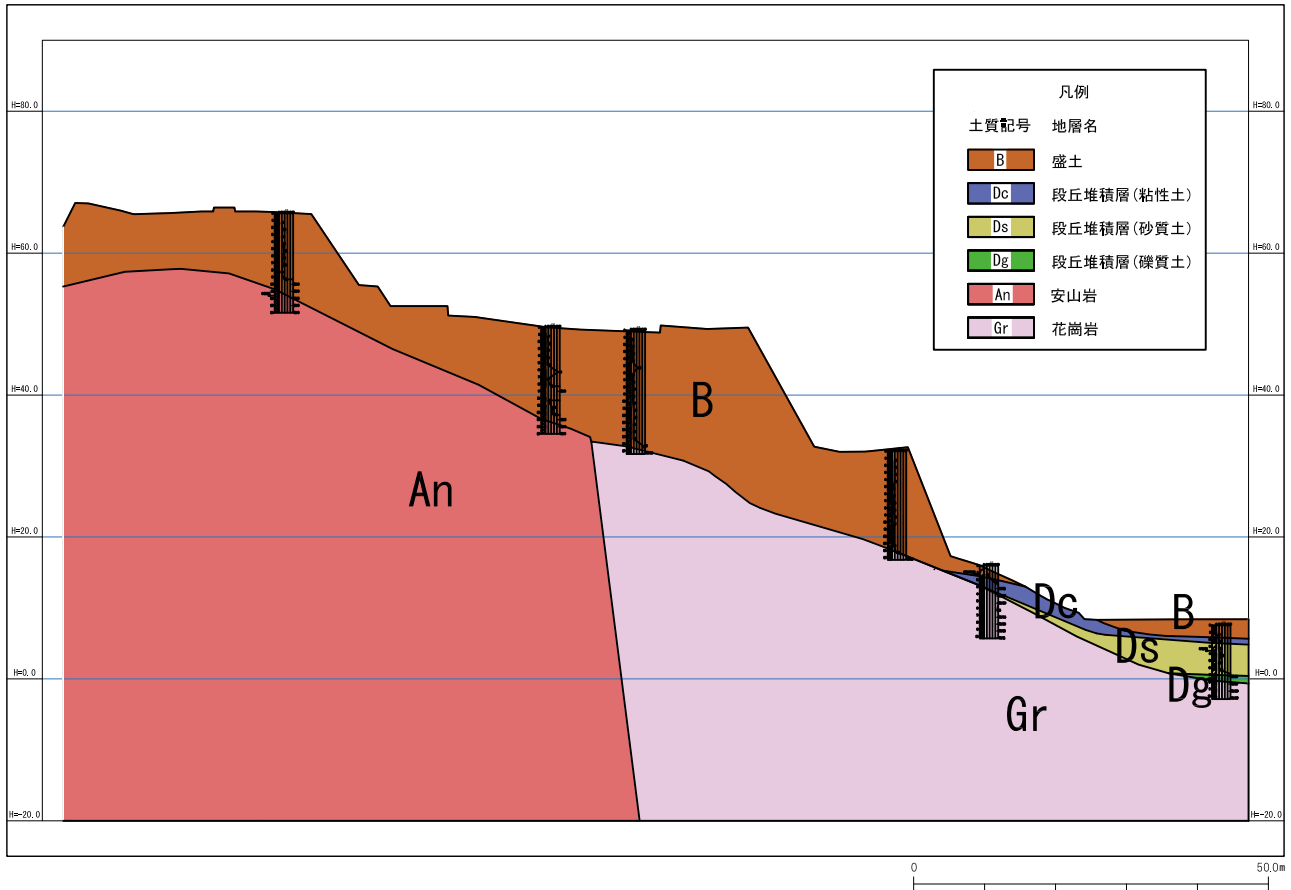


圖 13-2 地質断面 B

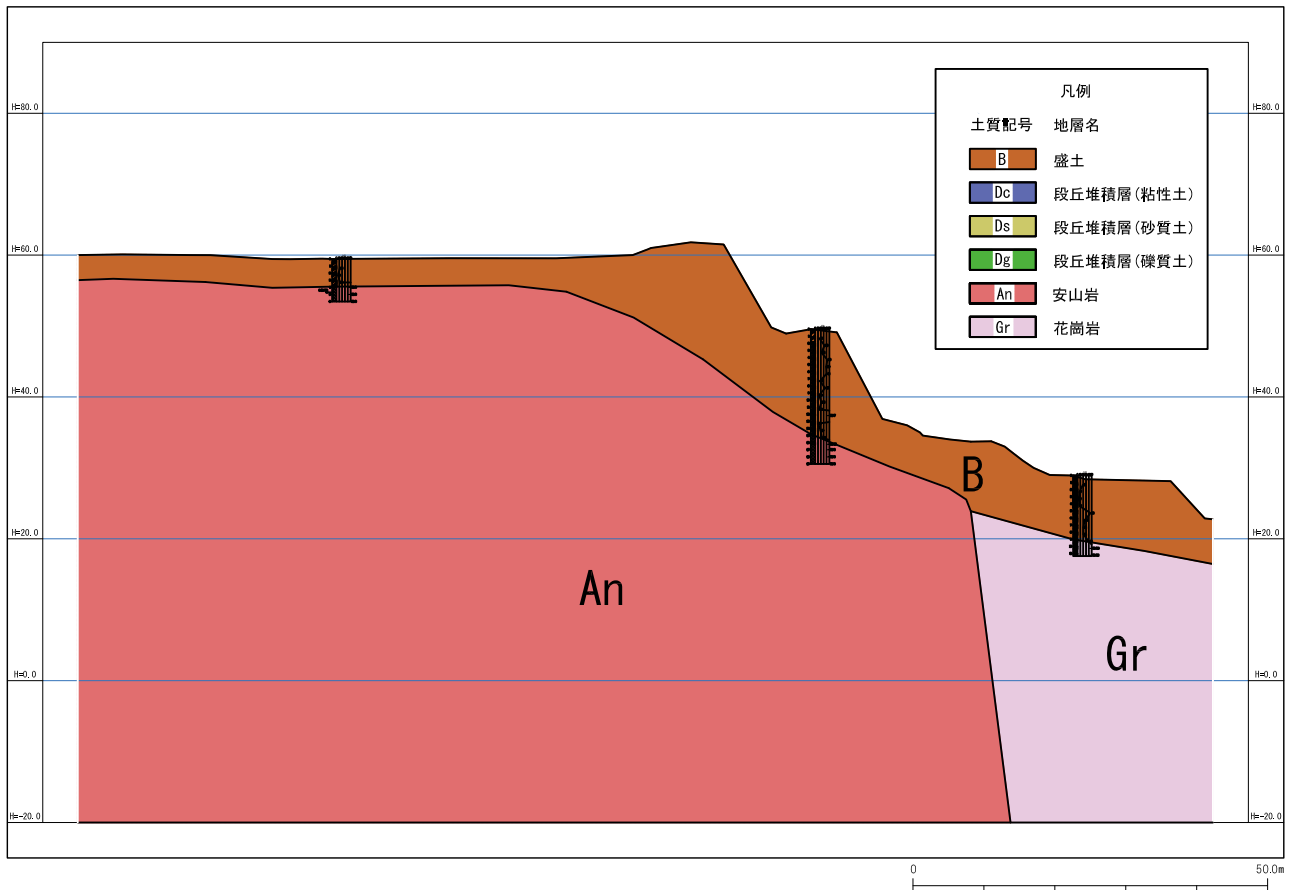


圖 13-3 地質断面 E

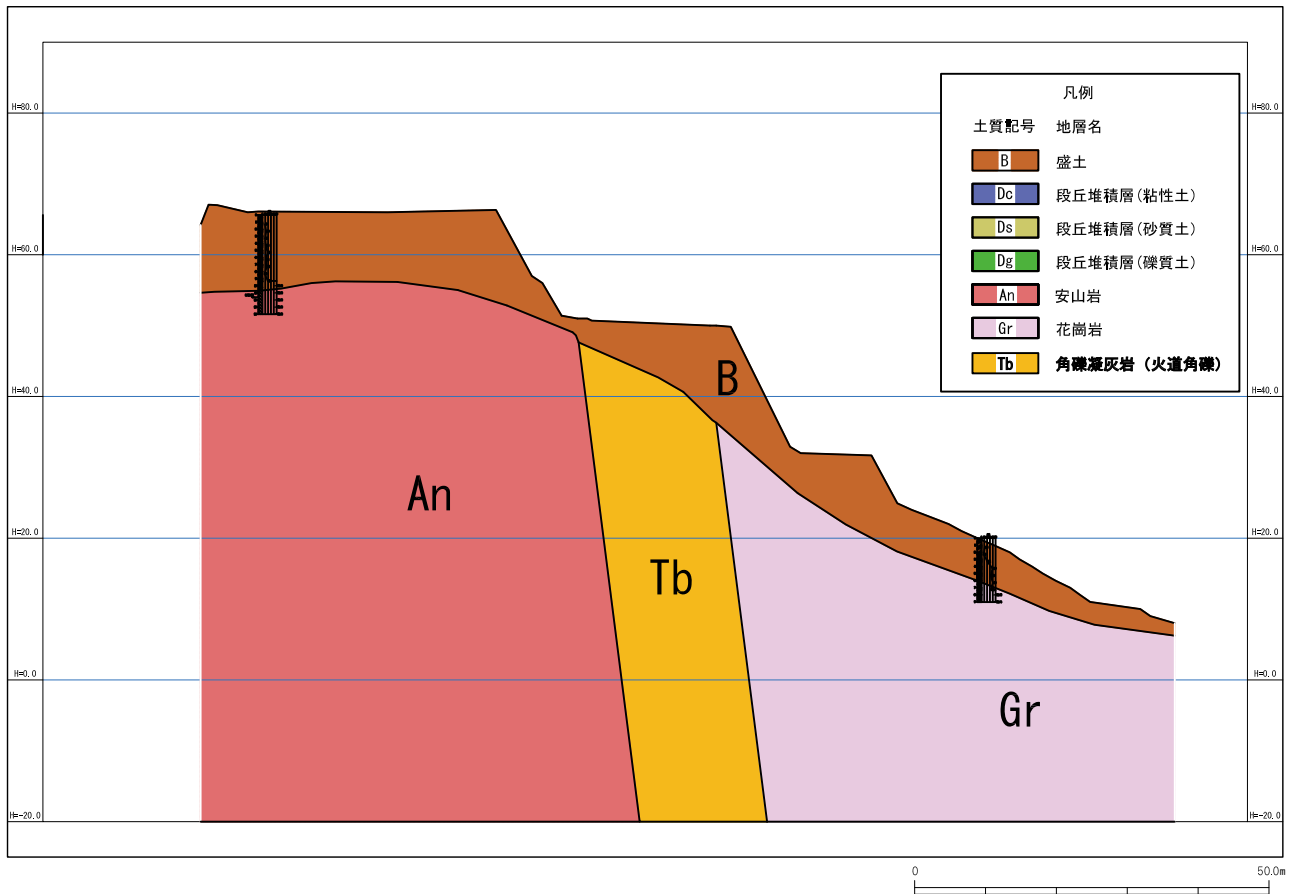


图 13-4 地質断面D

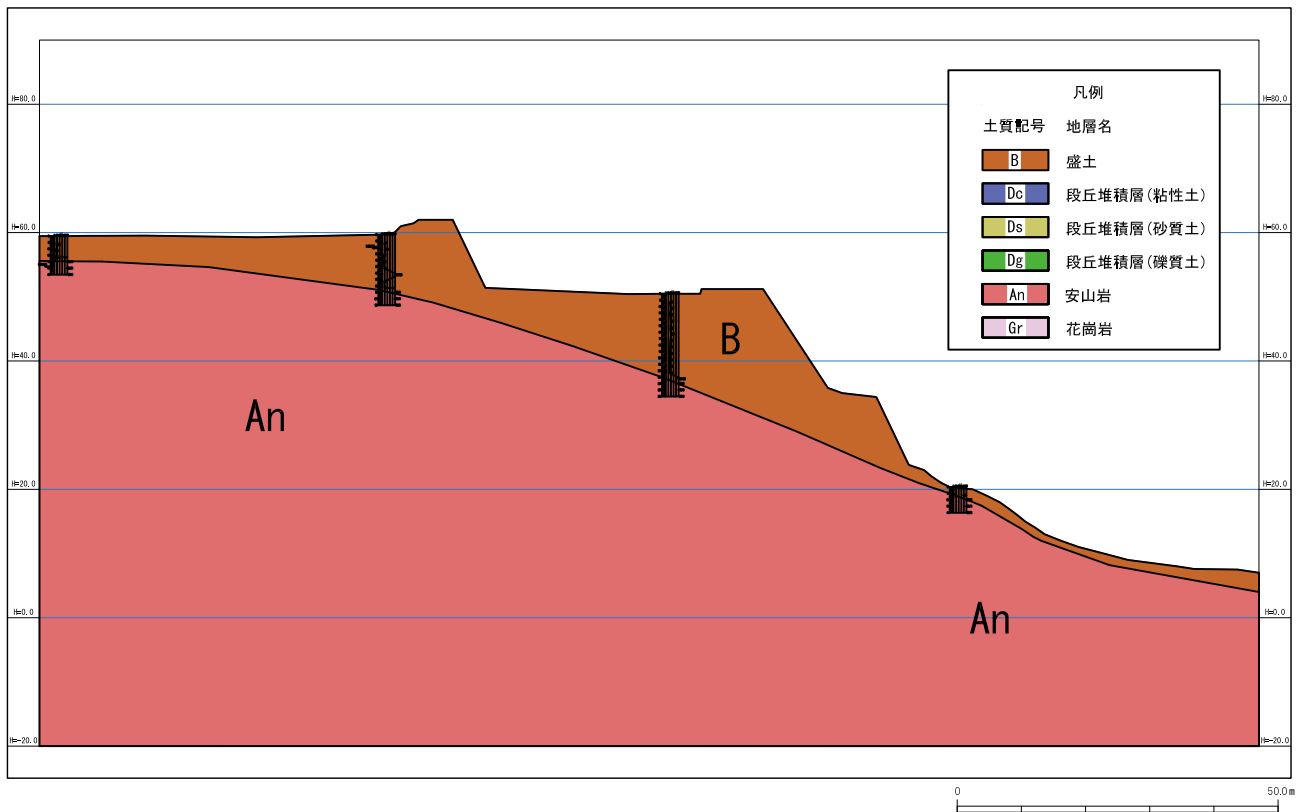


图 13-5 地質断面G

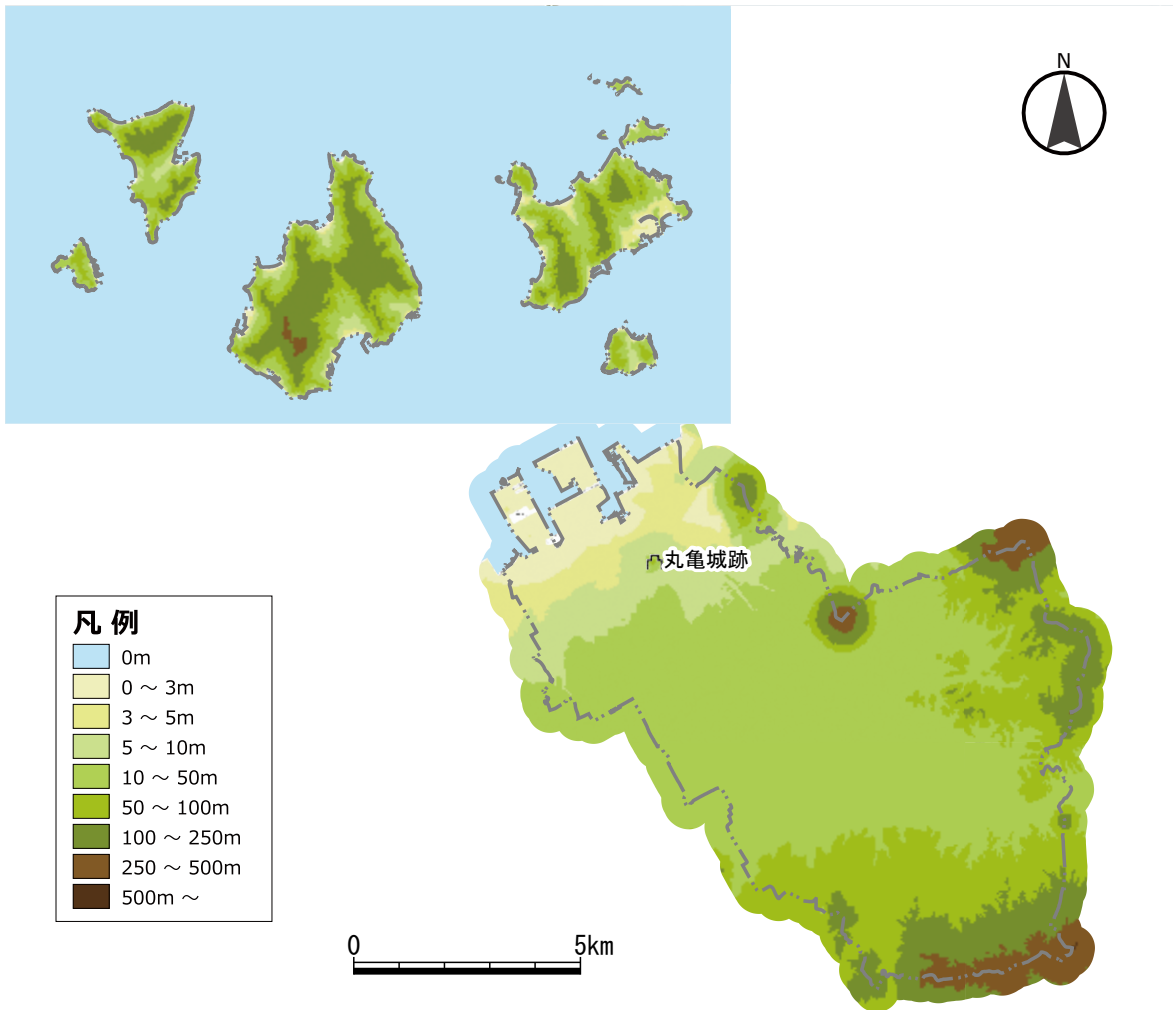
### 3 地形

丸亀平野の南部に位置するまんのう町吉野から標高 40～50 mの垂水町付近までは、主に土器川によって形成された沖積扇状地が発達し、和泉層群及び花崗岩類等に由来する礫を多く含む粗粒な扇状地堆積物が分布している。土器川及び金倉川下流域部の丸亀平野は、おおむねこれらの河川によって形成された沖積平野で、ほとんど起伏がなく、河川の上流堆積地帯の地質に由来する砂礫あるいは泥によって形成されている。海岸部には古くから造成された旧塩田や埋立地が広がっている。

丸亀平野の周辺に孤立した山地や丘陵地は、花崗岩類の上に凝灰岩などを挟んで、讃岐岩質安山岩を載せた溶岩原が隆起して開析された地形である。讃岐富士として名高く丸亀市のランドマークとなっている飯野山（標高 421.9 m）や青ノ山（標高 224.5m）等の円錐形の山塊はそうした形成プロセスによるものである。

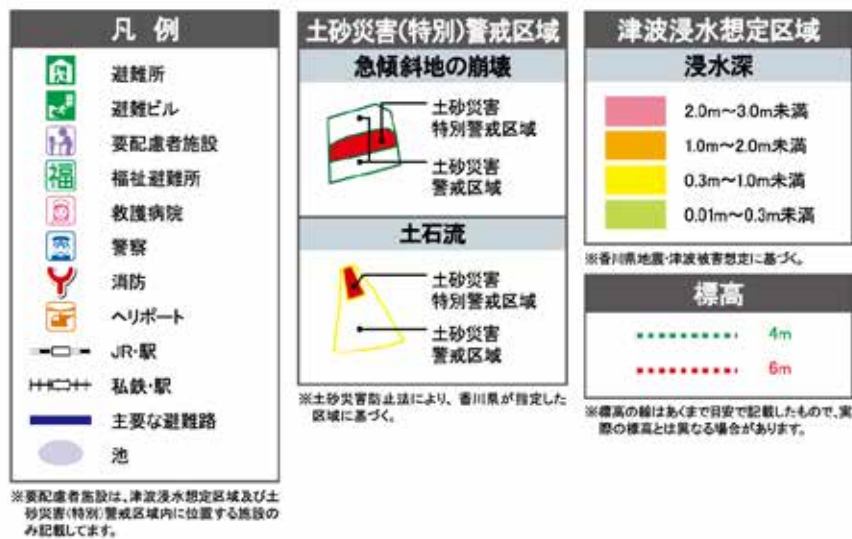
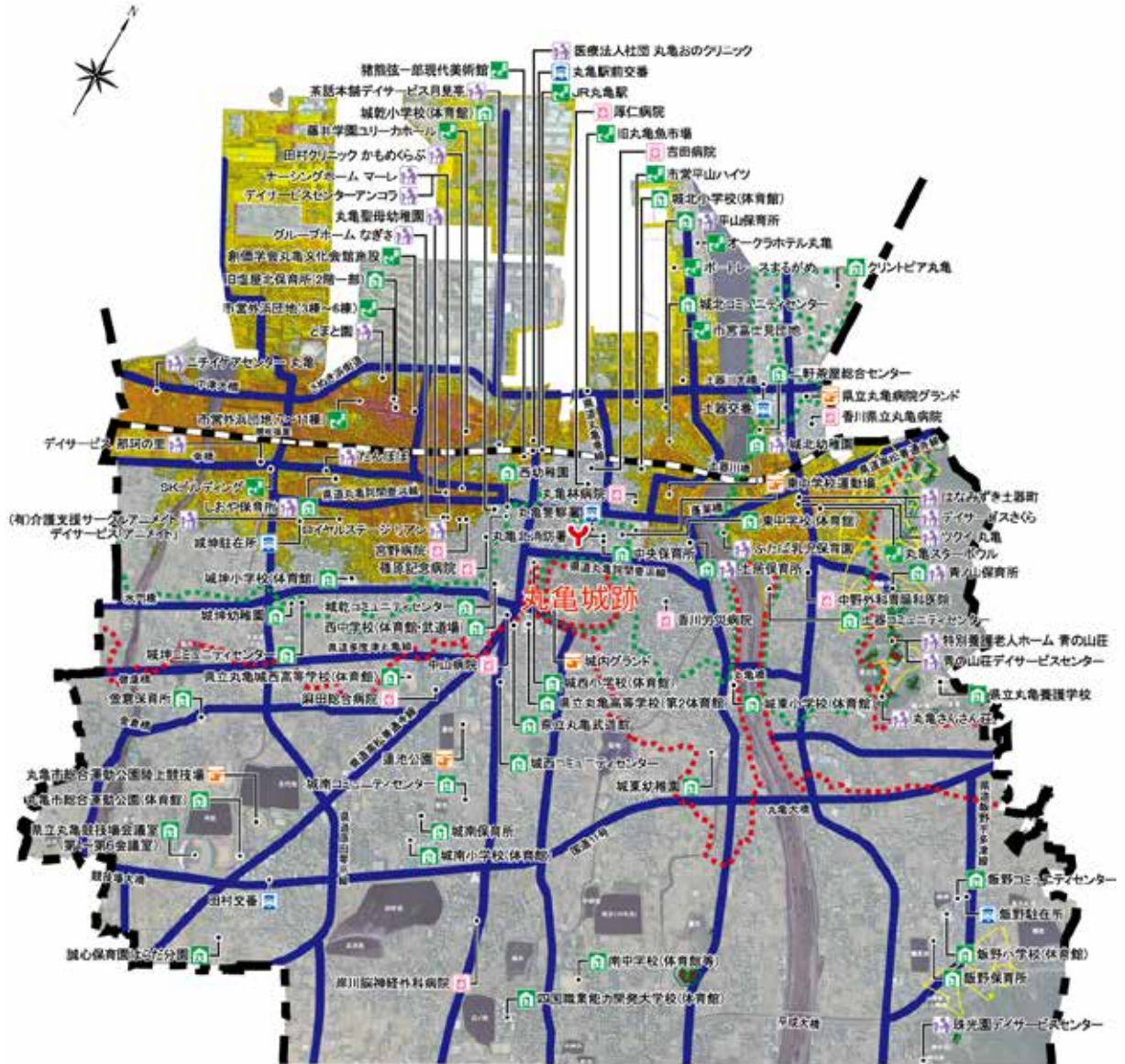
市内は北部の中心市街地、南部の条里地割が残る田園風景、土器川、金倉川の河川景観に大別される。特に南部の田園地帯は、ため池が多数点在して讃岐平野独特の景観を形成している。

ハザードマップ（図 15）によると丸亀城跡は標高 6 m以上に位置し、外堀以内の武家屋敷地や城下町は津波浸水想定区域に入っていないが、海沿いや土器川沿いの地区は浸水深さは 0.3 mから最大で 2.0 m未満の津波浸水想定区域となっている。



背景図 出典：国土地理院発行 電子国土基本図

図 14 丸亀市の地形



(「丸亀市防災マップ」を編集、加筆)

図 15 丸亀市ハザードマップ



#### 4 植生

丸亀市の山地のうち飯野山、青ノ山などはアカマツ林であったものが、1970年代以降のマツクイムシ被害でアカマツ林は消滅し、現在は広葉樹林となっている。

史跡地の周辺は、丸亀市の中心市街地として、市役所をはじめとした公共建築・学校、事務所・商業施設、住宅、道路等があり、地表が舗装されている部分が多く、自然植生はなく、街路樹や庭木にヤマモモ、サトザクラ、クスノキ、アカメヤナギ、マサキ等がある。また、城跡北隣の内堀に臨む市民ひろば等芝張りが行われている箇所もある。

丸亀城跡内も公園化が進み、人の手が加わった緑地帯となっている。山上部には、ソメイヨシノ、アキニレ、エノキ、ムクノキ、サルスベリ、イロハモミジ、ハゼノキ、アベマキ、センダン等の落葉樹やクスノキ、モチノキ、キンモクセイ、ウバメガシ、ナナミノキ、アラカシ、ネズミモチ、シャシャンボ、ホルトノキ、ヤマモモ、クスドイゲ等の常緑樹、クロマツ、ヒノキ等の針葉樹がある。

亀山斜面は雑木林となっているが、生態保護区域として、草刈りを休止しているため東部から南西部にかけて、クズやマダケが繁殖し、北部にはシュロが見られる。生態保護区域の自然緑地としての生態系が攪乱破壊されている状況となっている。

都市公園としての色あいが濃い山麓の山下曲輪はソメイヨシノ、ウメ、クロマツ、クスノキ、ハギ、ツバキ、サザンカ等が植えられており、芝張りが行われている箇所もある。



写真1 生態保護区域の表示



写真2 生態保護区域のクズの繁殖状況

#### 5 動物

史跡地周辺には純粋な野生動物はほぼ存在しない。史跡地内ではタヌキが生息するほか、周辺地から入ってくるネコが散見できる。鳥類では、内堀でコブハクチョウが飼育されているほか、ハト、カラス、スズメ、ウグイス、アオサギ、カワウ等が生息し、冬になるとユリカモメが飛来する。

内堀にはフナ、ナマズ、タモロ、テナガエビ、それにコイ、ソウギョ、ブルーギルやクサガメ、ミシシッピーアカミミガメ等の外来種が棲む。